



この地で生まれ、この地から 広がっていったスポーツがある。

ゴルフ場に出かけて行かなくとも、屋外運動場(グラウンド)があれば、気軽にいつでもだれでもできるゴルフ。いまや日本国内だけでなく海外でも多くの競技者に愛されている、まさに世界の生涯スポーツだが、発祥の地は日本海を望む小さな村、旧泊村(現湯梨浜町)だったのだ。「健康づくり」の理念のもと、多くの人びとの知恵と汗を集めて誕生したのは1982年、すぐに大反響を生んでメディアが取り上げ、輪が広がっていった。

1988年に泊小学校で開かれた第1回大会でも盛り上げに「役買った桜井好子さんは、1993年に専用グラウンド・ゴルフ場(「潮風の丘とまり」)がオープンしたときから職員として関わり、以後ずっとその歴史と肩を並べて歩いてきた人だ。「なんとといっても、この景色のきれいさ、気持ちのよさがお客さんの心をとらえてきたのでしょね」。まさにそのとおり。丘に立ち、広々とした日本海の眺望を独り占めするようにしてプレイをつづける。これは得がたい環境だ。「みなさん元気になって帰られます」。創設以来のこの名物婦人の得意プレイは、細やかなもてなしだ。「とても癒される」と多くの人々が評価する。昨年、古稀を迎えたがいたって健康。秘訣は？「うん……、にっこり微笑みながら「夫婦仲がいいの、それかしら」」。

東京オリンピックの翌年2021年、関西ワールド・マスターズゲームの会場となる。潮風わたる丘に熱気があふれることだろう。

潮風の丘とまり
桜井好子

ゆ
う
ゆ
う、
ゆ
り
は
ま

